



〈事業所紹介〉

2025年4月1日にオープンされた

一般社団法人「結夢皆」へやってきました

今回は、2025年4月1日に開所した日中一時支援事業所「ゆーみん」を訪ねました。かつては民家だった二階建ての住宅が事務所となります。玄関を開けると、まるで自宅に帰ったかのような居心地の良い空間が広がります。結夢皆は、知的障害と発達障害をお持ちの方とご家族を対象にした「日中一時支援事業」を展開されています。日中における活動の場を確保し、またご家族の一時的な休息を図ることを目的としています。代表理事の新元さんと理事の渡辺さんにお話を伺います。お二人は当事者家族であり、新元さんは長年にわたり障害福祉に従事し、ボランティア団体の運営にも携わって来られました。「子どもから成人、高齢期まで、一貫した支援を提供できる拠点をつくりたい。誰もが我慢せずに過ごせる場を実現したい。」とい



代表理事の新元さんと理事の渡辺さん

【お問合せ先】
電話 0824-69-0555
(三次市十日市南2丁目14-10)

取材当時の通所利用者は8名。一般企業に就職している方や就労継続支援B型事業所を利用中の方も、仕事終わりやお休みの日に利用されているとのこと。活動内容は、絵画教育や手工芸作り、パソコン作



くつろげる和室



色々な作業や勉強会などができる多目的な部屋

結夢皆として目指すものは何でしょう？「障害者本人や家族の長年の願いである、障害があっても安心して楽しく暮らせる地域を目指したい。地域の方のご理解やちよとした支援が大きな力になる。」とこれからの展望を話して下さいました。人と地域を「結」び、「一人ひとりの「夢」や希望を支え、「皆」が安心して過ごせて、つながる場。結夢皆で新たな一歩を踏み出しましょうか？

利用者みなさんの作品



業に学習支援と盛りだくさん！障害のある方、またご家族それぞれにのしやべり会を開催し、保護者の方の勉強会の場としても活用可能です。自力で外出が難しいという声もあり、買い物支援やカラオケなどの日常生活や余暇活動サポートにも力を入れていきたいとのこと。

5月10日(土)

在職者交流会 “チェアヨガとボウリング”を開催しました。



講師 佐々木 ユカさん

今回は、『こことからだのメンテナンス』をテーマに、三次市内でヨガ講師をされている佐々木ユカさんをお招きし、椅子に座って行うチェアヨガを体験しました。

初めて体験された参加者も多く、みなさん興味津々！椅子に座することで、身体的負担も少なく、それぞれのペースで気軽に行えます。

ヨガはゆったりとした呼吸法や瞑想も併せて行うことで、自分自身の体調の変化を感じ取り、心身のバランスを整えることが期待できます。

参加者からは「呼吸法でリラックスできた。」「体の色々なところのコリが楽になった。」など、リラクゼーション効果を実感できたとの声も多かったです。

普段の生活に取り入れやすいのがチェアヨガの魅力ですね。



ボウリング大会入賞者のみなさん



昼食後、場所を移動し恒例のボウリング大会で汗を流しました。

ストライクが出ると大きな歓声が沸き上がり **ハイタッチ！**

心も身体もしっかりリフレッシュし、活力チャージできた一日となりました。

6月3日(火)

備北圏域障害者就労・職場定着支援推進会議研修会を開催しました。



講師 古川 卓さん

三次市福祉保健センターにて、一般社団法人K i T代表・子鹿医療療育センター臨床心理士の古川 卓さん(公認心理師・臨床心理士)を講師にお招きし『“働き続ける”を支える対話と実践～福祉と企業のギャップを超えて～』をテーマに研修会を開催しました。

事前アンケートを実施した結果とその分析を通じて、企業側と福祉専門職の連携を強化するための協働スキルなど、具体的な実践方法までご提案いただきました。

参加者からは「日々の支援に活かせる技術・アドバイスをいただけて良かった。」「理論的な視点から定着に向けた考え方を学べた。」などの感想をいただきました。「有意義な研修だった。ぜひシリーズ化して欲しい！」との声もあり、前向きに検討していきたいと思います。



センター活動実績 (2025年6月20日現在)

- 就職者数 528件(2010年4月から累計)
- 企業実習 382件(2010年4月から累計)

業種 食品製造業、自動車部品製造業、卸売・小売業、飲食業、サービス業、医療・福祉、農業、公務 など

今後の予定

- ▶障害者雇用企業等担当者研修会
8月28日(木) 13時30分～
- ▶在職者交流会・就活支援交流会合同開催
9月13日(土) ホースセラピーほか
11月 8日(土) リンゴ狩りほか



働くことの未来をさがして あなたらしい働き方を見つけよう!!

ハローワークの障害者雇用支援

働くことは、誰もが自分らしく輝けるチャンスです。

ハローワークでは、障害のある方の雇用を支援し、一人ひとりの強みや希望に寄り添ったサポートを行っています。今回、実際にハローワークの担当者に取材を行い、その取り組みについて詳しく伺いました。

ハローワークは、障害者就業・生活支援センターや障害者職業センターなど関係機関と連携し、就職活動の相談から職場環境の整備、スキルアップの機会提供まで、総合的に「働きたい」を後押ししています。担当者の方に

よれば、「求職者の方一人ひとりに合った支援を提供し、安心して就職活動に取り組めるよう努めています」とのこと。

また、雇用主の皆さまへのサポートも充実しており、障害のある方をハローワークの職業紹介により雇い入れた事業主に対し支給する「特定求職者雇用開発助成金」等や、職場環境の整備をサポートする各種助成金の案内を行い、障害者雇用の促進と定着を支援しています。

担当者は「企業の皆さまが障害者雇用に積極的に取り組めるよう、各種支援策を活用しながら伴走します」と話してくださいました。

「どんな仕事に向いているのか」「どんな支援を受けられるのか」そんな疑問や不安も、一緒に解決していきましょう。あなたに合った働き方を見つけ、安心して一歩を踏み出せるよう、専門スタッフが伴走します。

*ハローワークとは
厚生労働省が運営する公共職業安定所で、求職者と企業をつなぐ総合的な雇用支援機関です。全国に500カ所以上あり、職業紹介、雇用保険の手続き、職業訓練の案内などを無料で提供しています。障害者雇用や若者・シニア向けの専門窓口もあり、幅広い支援を行っています。

未来につながる仕事探し、今日から始めてみませんか？ さっそくハローワーク 三次と庄原、それぞれの障害者雇用の担当者にインタビューしてみましょう。

特別雇用指導官の弓取さんと
就労コーディネーターの小原さんにお話を伺いました。

▽普段の業務の中で心掛けていることなどあれば教えてください。

ハローワークの窓口には多くの求職者の方が相談に来られます。その中で障害のある方の就職相談を担当しています。最近の相談状況は精神障害（発達障害を含む）の方の相談が全体の半数を占めています。精神障害といっても症状はさまざまで、必要な支援や配慮も多岐にわたります。障害を抱えて就職することに不安を感じ、緊張しながら相談に来られる方も多いと思います。まずはお話を聞き、安心して相談できるような信頼関係を築くことを心掛けています。

▽「チーム支援」という言葉を耳にしますが、詳しく教えてください。

日頃より、障害のある方の状況により、ナカボツや障害者職業センター、福祉施設の職員等と連携し、チームとして就職サポートを行っています。ハローワーク、各支援機関の役割を踏まえ、多角的な視点で密に連携することにより、「就職、その後の継続就労」が実現できます。

引き続き、各支援機関と密な連携を行っています。

▽ハローワーク三次の特色は何かありますか？

仕事を探される方、人を雇いたい方がハローワークを利用されますが、利用者の皆様は穏やかな方が多いと思います。ハローワークは懇切・公正・迅速をモットーに、すべての利用者様にサービスの提供を行っています。

▽最後に仕事のやりがいについて教えてください。

ハローワークの業務は、利用者様の人生に関わる仕事であり、その重みを感じながら仕事をしています。特に、ハローワークで就職支援を行い、就職された後、就職した方や雇い入れた事業所の方から「頑張って働いていますよ。」とお聞きした時には嬉しさや安堵感を覚えます。また、就職活動になかなか取り組めなかった方に対し就職支援を行う際、自ら積極的に就職活動に取り組み、自立に向けて動き出された時は、就職支援者として非常にやりがいを感じます。



小原さん 弓取さん

ハローワーク庄原へ やってきました



▽ハローワーク庄原の特色や、普段の業務の中で心掛けていることなどあれば教えてください。

ハローワーク庄原は地域柄、他のハローワークと比べ相談者が少ないため待ち時間も少なく、同じ担当者が対応しやすいという特色があります。規模の小ささを活かし、より親身に対応できることがハローワーク庄原の強みだと思っています。私自身も、相談者に寄り添って話を聞くよう心掛け、「味方」なんだと思ってもらえるよう、話し方など特に気をつけています。

▽事業主支援について教えてください。

来年7月には障害者の法定雇用率が2.7%に引き上げられるとともに、対象となる企業の範囲も従業員37.5人以上に拡大されます。「雇用したい」とのニーズがあれば、障害者雇用に必要な情報を可能な限り提供させていただきます。また、求める人物像や業務内容を教えていただくことで、個別対応も可能です。一般求職者の方の中々仕事が見つからず就職活動を続けているという現状があり、高齢層の方も多く見られます。さらに、障害者雇用に限らず「求人」を充足させること」は特に重要な課題として捉えています。

就職促進指導官の菅原さんにお話を伺いました。

ので、求職者と求人者の希望条件をいかに近付けるか、ということを意識しながら引き続き支援に取り組みたいと考えています。そのため今年度は一般・高齢・障害と分けるのではなく、事業主のニーズを基に求人開拓に力を入れていきたいと考えています。

▽最後に仕事のやりがいについて教えてください。

就職が決まることはもちろんですが、入社後雇用主側から頑張っておられると聞いた時ですね。就職先を紹介するだけでなく、職場定着ができている、会社の戦力になっているなどの成果を増やしていくことが、ハローワークとしての使命だと思っています。

▽インタビューを終えて...

今回、3名の障害者雇用担当者にお話を伺いました。皆さん熱い思いを持って業務にあたっておられます。構えず気軽に、相談に行ってみましょう。必要に応じてナカボツが同行することも可能です。



菅原さん